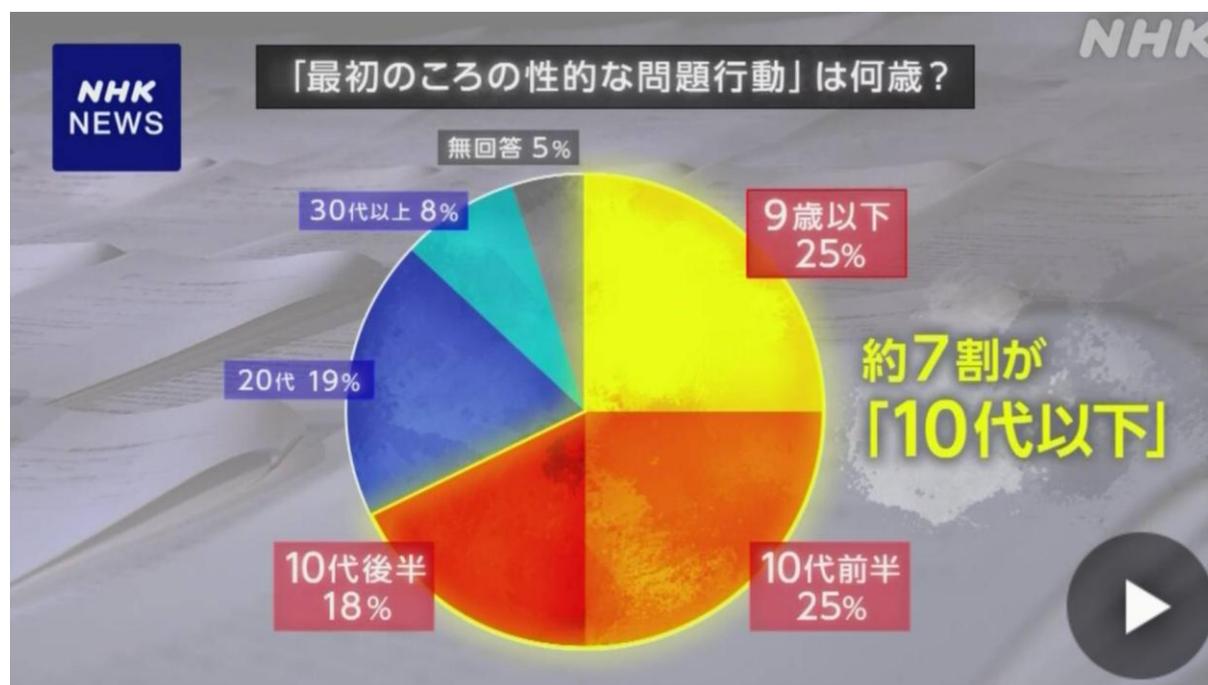


性加害 7割が10代以下で加害経験 多くが相談先につながらず

2025年10月26日午後3時51分

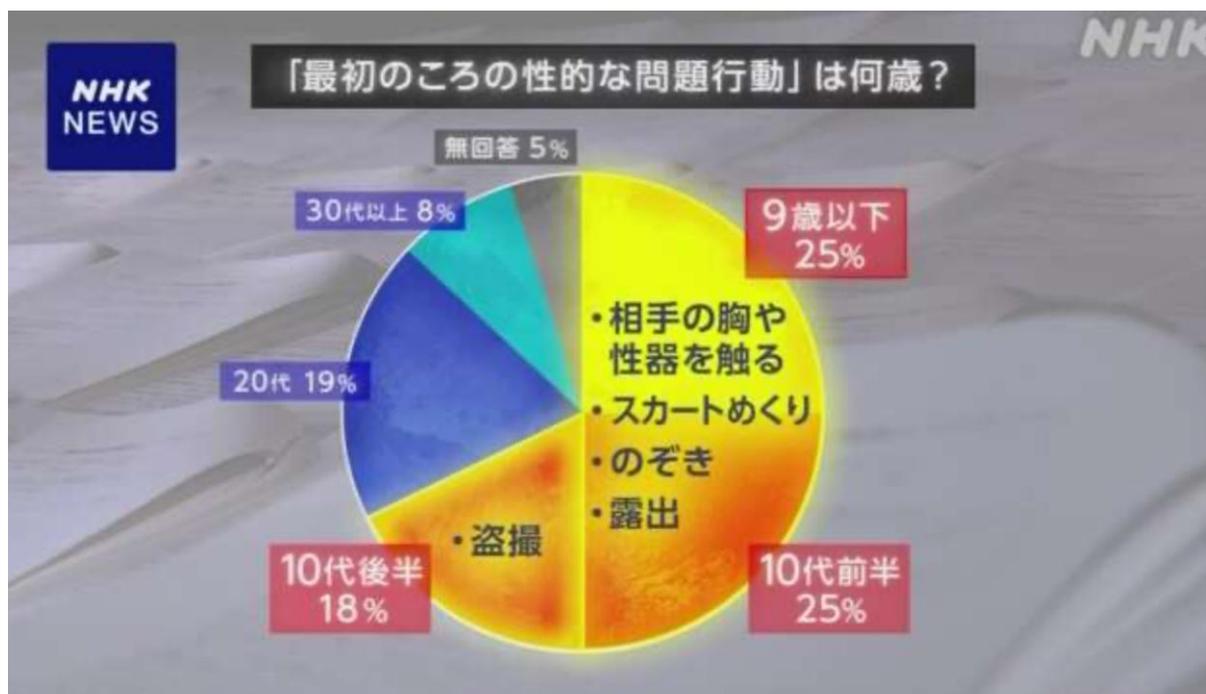


<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014959791000>

盗撮などの性犯罪が後を絶たない中、NHKが全国の刑務所やクリニックなどの協力で、盗撮を含む性加害をした当事者145人にアンケートを行ったところ、最初の性的な問題行動を行ったのが10代、あるいはそれ以下と回答した人が7割近くにのぼり、その後も多くが相談先につながらないまま犯罪を繰り返していることが分かりました。

アンケートは、全国の刑務所やクリニックなど9か所の協力で、性加害を行った成人145人に行いました。

のぞきや盗撮、相手の胸を触るなど、最初の性的な問題行動を行った年齢について聞いたところ、全体のおよそ7割が、10代あるいはそれ以下と回答。最も多かったのが9歳以下と10代前半でともに25%、10代の後半が18%でした。



そして、その最初の体験がその後問題行動を繰り返したことに影響を与えたと思う、少し思うと答えた人の割合は7割近くに上っていました。

また、どういうきっかけがあれば犯罪を繰り返さなかったと思うか複数回答で聞いたところ、およそ6割が、専門家による治療やカウンセリングをあげたほか、およそ半数が、▽被害者の気持ちを正しく知る、▽性について相談できる人がいることをあげました。

一方、未成年で問題行動を行ったと回答した人のうち半数が、その行為がほかの人に見つけられたと答えましたが、その後の大人からの対応として性教育などを学ぶ機会が与えられたと答えたのはそのうち1割に満たず、発覚後も適切な支援につながらず犯罪を繰り返していたことが分かりました。

専門家 “早い段階の介入と相談場所で 繰り返すリスク低減”

これまで3500人以上の性加害者への臨床に携わってきた齊藤章佳さんは「最初の性加害をスタートとして反復していく可能性があるので、最初の段階、早い段階で介入し、改善プログラムにつなげ、性のことを否定されずに相談できる場所をつくることで、繰り返すリスクは低減できる」と話しています。

当事者の1人「早い段階でやめるきっかけが欲しかった」

アンケートに答えた1人、22歳の男性は、盗撮がやめられず、心理士などに相談しながら治療を受けています。

男性が最初に盗撮したのは中学3年のとき、ネットの盗撮動画を参考に女子トイレで行ったといいます。

その達成感が今でも忘れられないと打ち明ける一方で、過去に発覚したタイミングで信頼できる相談先に巡り会えていれば、やめられたかもしれないと話します。

中学では、盗撮を打ち明けた担任の勧めで、児童相談所で更生プログラムを受けましたが、半年で終了。

高校でも盗撮が見つかりましたが、指導されることはなかったといいます。

現在はみずから心理士などに相談して治療を受けているという男性は「加害者の立場で言えることではないですが、早い段階でしっかりとした、やめるきっかけが欲しかった」と話しました。